

# Money meets the Int

執筆

榊山 寛

masuyama@dabb.com

任天堂代表取締役、  
メディア環境研究者  
99年はプロデュースしたゲーム  
がNINTENDO64、プレステで発売  
URL <http://www.masuyama.com/>

監修

リチャード・マイケル・  
ナッシュ

Private Assets Limited 取締役社長  
国際金融の専門家として、  
国際資産運用に関する  
コンサルティングや  
講演などを行っている

## 実践！インターネットユーザーのためのマネー入門



米国の株高を牽引しているのは、間違いなくインターネットだ！  
関連銘柄の人気というだけでなく、インターネットトレーディングが個人の投資家を急増させているのだ。  
ナイキやディズニーといった身近なブランドから、宇宙、バイオ産業まで。未知なる魅力に満ちた米国株式市場。銘柄を選ぶのは、あなた自身だ。

この記事は特定の金融商品への投資を勧誘するものではありません。運用は目的を持って自己責任で行ってください。

## Chapter 4 インターネットの情報パワー全開！ オンライントレーディングで米国株を購入

情報収集 & 売買編

### 米国株の基礎知識 「ナスダックって何？」

前号では、米国のオンライン証券会社「Datek」に自分の口座を持ち、資金を送るところまでを紹介した。今回は、いよいよ具体的な銘柄を選び、実際に株を購入することになる。米国株への投資を考えている人にとっては、もっとも興味を引かれる部分ではないだろうか。しかし、ひと口に「米国株」といっても日本国内の市場とは異なり、基本的な部分で知らないことが多いものだ。まずは、海外投資のポータルサイトとも言える米国 Yahoo! Finance のトップページを見てみよう (1)。



① 「Yahoo! Finance」  
米国株投資の基本情報はここで  
<http://finance.yahoo.com/>

一番上には、日付と時刻が東海岸時間で、そしてニューヨーク市場があと何時間で開くか、閉まるかが表示されている。その下の表に書かれているのが、米国金融市場を知るときの代表的な数値だ。左上は、日本のニュースでもおなじみ、先日(99年3月29日)史上初の1万ドル台を達成した記憶も新しい「ダウ」の金額だ。ダウは、正式には「ダウ・ジョーンズ工業平均」(Dow Jones Industrial Average)といい、経済情報サービスのダウ・ジョーンズ社が、AT & T やゼネラル・エレクトリック、マクドナルドといった、大企業30社を選んで株価を指数化したものだ。1896年の発表以来、百年以上もの歴史を誇る最古にして世界でもっともポピュラーな指数である。しかし、基準となる銘柄が30と少ないこと、銘柄のほとんどが伝統的な大企業であることから、ある種の偏りがあることも事実だ。本誌の読者には、IBMはダウ30社に含まれるが、アップルもマイクロソフトも含まれていないと書くかわかりやすいだろうか (1)。

ダウが、約2500の銘柄が登録されているニューヨーク市場 (NYSE = New York Stock Exchange) を代表する30社なのに対し、アップル、マイクロソフト、デルといったパソコン関連をはじめとして、比較的新しい会社の銘柄が取引されるのがナスダック (NASDAQ) と呼ばれる市場だ。銘柄数は約

4000。Yahoo! Finance ではコンポジットと呼ばれる総合指数がダウの右に表示されている。ナスダックとは、National Association of Securities Dealers Automated Quotes の略で、NYSE や東証のように中央に実際の取引所があるわけではなく、約500の証券会社が電子的につながった分散型の市場なのだ。いわゆる「店頭市場」だが、株式の評価額では全米屈指の銘柄も多く、NYSE とは決して単純な上下関係になっているわけではない。

### 右肩上がりの米国株式 日本語情報も除々に充実

Yahoo! Finance の画面で、ナスダックの右にある指数が「S & P 500」。会社や金融商品の「格付け」で知られるスタンダード・アンド・プアーズ社が選んだ500社を基準にしたものだ。ここでは、ダウの30社からもナスダックからも区別なく選ばれており、アドビシステムズやデルコンピュータといった、パソコンユーザーにおなじみの銘柄も含まれている。日本での知名度は高くないが、米国の株価を平均的に知るには非常に参考になる指標だ (2)。他の指数が知りたいときは Yahoo! Finance のトップから「U.S. Market」の「Major US indices」を選ぼう (3)。

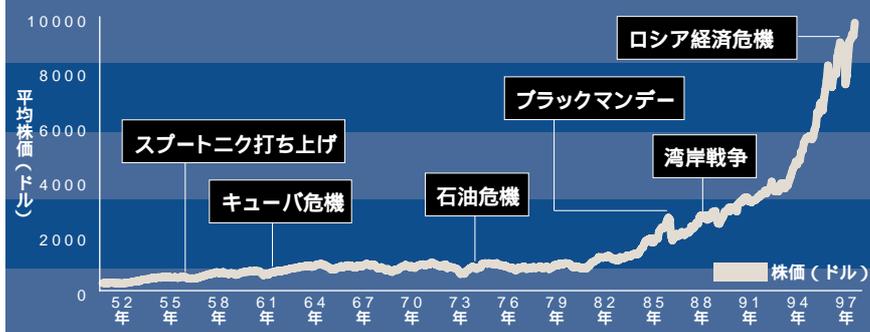
ダウとナスダック指数の下に記されているのは「出来高」。その右は30年もの米国債

金利だ。そして、それぞれの数値は、高値や安値、チャートなど詳しい個別情報のページにリンクしている。過去5年のチャートを見ていて強く感じるのは、ダウナスダックもS & P500も、確実に右肩上がりの実績を示していることだ。ダウ・ジョーンズのサイトに行ってみると、過去百年にわたるダウ平均の価格が、当時の社会情勢とともに記されていて、なかなか興味深い。ここでは、それを参考に過去50年の右肩上がりの様子をチャートにしてみた。近年では、98年秋のロシア経済の破綻における暴落が典型だが、短期的な下げはあっても、着実に上がっている。特にクリントンが米国の大統領に就任し、インターネットがブームになった93年以降は、圧倒的な上昇率を示しているのがわかる。



Yahoo! Financeに戻って、バナー広告の下には入力フォームがあり、「Get Quotes」というボタンがある。これが個別の株価を調べるときのもので、ここに「ティッカー」(Ticker)と呼ばれる銘柄コードを入れる必要がある。ティッカーは、マイクロソフトが「MSFT」、ヤフーが「YHOO」などと略称に

## 米国の株価の動き



近く覚えやすいものも多いのだが、インテルは「INTC」、ソニーが「SNE」、あるいは1文字で「T」(AT & T)、「F」(フォード)などもあり、慣れが必要だろう。もちろん、「symbol lookup」というリンクで、会社名から検索することもできる。ただし、ヤフーの株価はリアルタイム表示ではないので注意が必要だ。リアルタイムなデータが必要なときは「フリーリアルタイム」(4)を利用しよう。

さて、まだ多くはないが、米国株に関する日本語情報も身近になりつつある。CS放送では「ブルームバーグテレビジョン」がマルチスクリーンで24時間の金融情報を提供(2)している。ウェブサイトで代表的なのが「ワールドストックジャーナル」(3)、日刊メールマガジンとしても購読できる海外市場ニュース、特集記事、個別銘柄紹介から、掲示板、各種資料まで、独立系無料サイトとしては圧倒的な速度と充実度だ。書籍では『ゴミ投資家のためのインターネット株式投資入門』(メディアワークス社)が4月中旬に出版されたばかりだ。このシリーズでは、WEB上の掲示板が活発な展開をしているのも見逃せない(5)。さらに、個人サイトでユニークなのが「ク

ールに過ごそう」(4)、米国シアトル在住の日本人デイトレーダーによる日記が、個人レベルのオンライン取引の状況をビビッドに伝えてくれる。

## 関連サイト

「DJIA Stocks」Dow Jones  
[http://averages.dowjones.com/djia\\_cos.html](http://averages.dowjones.com/djia_cos.html)  
 ダウ指数の30社(1)

「Index Services」S & P  
[http://www.spglobal.com/a\\_500alpha\\_a.html](http://www.spglobal.com/a_500alpha_a.html)  
 S&P500指数の500社(2)

「Major U.S. Indices」Yahoo!  
<http://finance.yahoo.com/m1?u>  
 米国の金融指数(3)

「Free Real Time.com」  
<http://freerealtime.com/>  
 無料のリアルタイム株価検索(4)

「ゴミ投資家シリーズの掲示板」alt.books  
<http://www.mediaworks.co.jp/alt/taxhbs2/>  
 書籍「ゴミ投資家」シリーズ(掲示板)(5)



2 「ブルームバーグテレビジョン」ブルームバーグ社が提供するTV放送の画面。世界の金融情報を日本語で放映。文字情報も充実  
<http://www.bloomberg.co.jp/>(同社のウェブサイト)



3 「ワールドストックジャーナル」日本語ウェブサイトの基本とも言える  
<http://www.csj.co.jp/ws/j/>



4 「クールに過ごそう」シアトル在住の日本人デイトレーダーによるウェブページ  
<http://www.hesjapan.com/Seattle/Cool/>

# Money meets the Internet!!

実践! インターネットユーザーのためのマネー入門

## インターネットならではのデータを活かそう

米国株の魅力の1つが、銘柄数1万を超える選択肢であることは確かだが、初心者にはあまりにも多すぎて何を選べばよいかとまどってしまう部分もある。ここで役立つのは、やはり先人の知恵だ。全米でもっとも成功した投資家といわれるウォーレン・バフェット氏は、株式投資とは単に株を買うことではなく、企業を買うことだと言う。また、彼が投資する企業についての三原則を「理解しやすいこと。安定した業績。長期的な明るい展望」としている。

インターネットユーザーが米国株に興味を持ち始めてすぐに気付くのは、アマゾンコム (AMZN) や、ヤフー (YHOO) といった「インターネット」銘柄が、市況全体にとってきわめてホットな話題だということだ。あなたが株や投資についてのシロウトであったとしても、エンドユーザーやビジネスマンとして特定の業種に詳しくれば、それぞれの会社を「理解しやすい」立場にすることになる。さらに、米国では企業の情報公開が徹底して義務付けられているが、それにアクセスするには、今やインターネットが量、質ともにベストなのだ。

それでは具体的に見ていこう。新聞の定番は「ウォールストリートジャーナル」「ニューヨークタイムズ」(ビジネス) 雑誌は「フォーブス」や「フォーチュン」といったところだろう。どのサイトでも、トップに前述の株価指数が掲載されている。個別銘柄の業績を知るには、「ウォールストリート・リサーチネット」が便利だ。トップページの左フレームにある「Research A Company」をクリックし、次ページでティッカーを入力。ここでは、

## こんな情報もウェブ上でチェックできる

名称	URL
ウォールストリートジャーナル(新聞) 年間59ドル	<a href="http://www.wsj.com/">http://www.wsj.com/</a>
ニューヨークタイムズ(新聞)	<a href="http://www.nytimes.com/yr/mo/day/business/">http://www.nytimes.com/yr/mo/day/business/</a>
フォーブス(雑誌)	<a href="http://www.forbes.com/">http://www.forbes.com/</a>
フォーチュン(雑誌)	<a href="http://cgi.pathfinder.com/fortune/">http://cgi.pathfinder.com/fortune/</a>
フーバース(WSRNと並ぶ企業情報が充実)	<a href="http://www.hoovers.com/">http://www.hoovers.com/</a>
IPOセントラル(新規公開株関連情報)	<a href="http://www.ipoentral.com/">http://www.ipoentral.com/</a>
インベストメントFAQ(英語の投資用語検索 + FAQ)	<a href="http://www.invest-faq.com/">http://www.invest-faq.com/</a>

誰もが知っている銘柄としてコココーラ (KO) を選んでみた。すると、コココーラ社に関する膨大なデータへのリンク集ページが表示される。この「Research & Reports」から「QuickSource : Fundamentals, Ratios & Earnings」を選べば、P/Lやバランスシートなどのいわゆる財務諸表を、過去数年にわたって見る事ができる(⑤)。業績を見て、何か知りたいことがあれば、再度前ページのリンク集に戻ろう。過去10年間の株価チャートも、雇用状況や経営者に関するニュースへも、リンクが用意されている。



さらに詳しい究極の情報源が、米国版の決算報告書ともいえる「10Q」(四半期ごと)「10K」(1年ごと)レポートとして公開されている。米国にはSEC(証券取引委員会 = U.S. Securities and Exchange Commission) という政府の機関があり、日本とは比較にならないほど厳しい会計基準で、情報公開を行

っているのだ。SECのトップページから「EDGER」と呼ばれるデータベースを呼び出し、簡単にキーワード検索をすることができる(⑥)。

ここでは「coca cola」と入れてみた。100を超える書類がヒットした中で「coca cola 10-k (03/29/1999)」というのが、探していた最新の年次報告書だ。これは、膨大な文字と数字のデータで、かなりゲンナリしてしまう雰囲気のものだが、個人レベルの投資家として必要な部分はごく一部のような。今回のインタビューに登場していただいた荒井拓也氏の著書『1000ドルから本気でやるアメリカ株式投資』(NTT出版)などを参考に、少しずつ攻略していこう。

企業に公開が義務付けられている情報として、特に興味深いのは「インサイダー」だろう。これは日本語でいう内部からの情報リークによる違法な取引ではなく、文字どおり社内の役員や社員による自社株の取引のことを指す。試しに、Yahoo! Financeでマイクロソフト (MSFT) の株価を表示させ、「More Info」の右下の「Insider」をクリックしてみると、ポール・アレンやウィリアム・ゲイツ三世という名前を見つけることができるだろう。

さて、この原稿を書くにあたり、筆者自身も初めてのオンライントレーディングに挑んでみたわけだが、今更ながらに痛感したのはインターネットのパワーだ。知識とエネルギーさえあれば、元手は小さくても、すぐにプロのトレーダーになれてしまう。米国ではネットとPCを武器とする個人の「デイ・トレーダー」が急増し、その存在が市場そのものを変質させているという。遅かれ早かれ、日本にもそんな日がやってくるに違いない。



⑤ 「WSRN」企業の財務諸表が見られる  
<http://www.wsrn.com/home/dataset/quicksourree.html?symbol=KO&page=2>



⑥ 「米国証券取引委員会」(SEC)ウェブ上で決算報告書のデータが閲覧可能  
<http://www.sec.gov/>

# Datekで コカコーラ株を購入!



「Datek」  
オンラインで口座開設の申し込み登録ができる  
<http://www.datek.com/>

先月号で口座を開いたDatekで注文を出してみる。今回はコカコーラ株を例にとり、注文の出し方からキャンセルの方法までを解説したい。銘柄が決まれば、あとは非常に簡単。  
これからは米国の株式市況が気になる!?

## 1 株価 -Quote-



<http://www.datek.com/>でログイン。左上の「TRADE NOW」をクリック。「Stock Symbols」に、ここではコカコーラの「ko」を入れ「Get Quote」を押す。その右の丸い「i」ボタンは初心者向けFAQなので活用しよう。

## 2 注文 -Order-



株価が表示される。数字は左から「買い気配」(Bid)、「売り気配」(Ask)、「終値」(Last)、「高値」(High)、「安値」(Low)、「出来高」(Volume)。画面は閉場後だが、時間や市況によって表示は異なる。下段左から

プルダウンで「Buy」を選択し、購入株数(Quantity)を数字で入れる。「Price」の右、Order Type「Market」とは市場の「成り行き」値段に任せる設定で、「Limit」は値段を自分で指定する「指値」だ。「Stop」とはある値段になったら「Limit」か「Market」で注文を出す指定。「Expire」は、注文を出した日のみ有効な「Day」か「GTC」(Good Till Cancel = キャンセルするまで有効)かを選択する。ここでは1株を60ドルの「Limit」「GTC」で購入を指示。Enter Orderをクリック。なお、「GTC」で注文した場合は、後日Datekから確認の書類が郵送されてくる。

## 3 購入 -Buy-



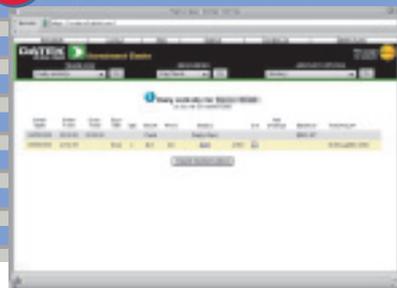
注文内容を確認してくる。左上から「コカコーラを、60ドルの指値で1株」。その左下には「手数料込み購入価格が69.99ドル」とある。確認したら、右のボックスにパスワードを入力することで購入を最終決定。

## 4 確認 -Confirmed-



「購入を確認されましたね」というメッセージで内容が再確認される。あとは、自分の指定した値段で売買されるのを待つだけだ。慎重な人はTracking Numberを控えておくといだろう。

## 5 その日の注文 -Daily-



左上のプルダウンから、「Daily Activity」を選ぶと、その日の注文記録が表示される。キャンセルしたい場合は、「GTC」の右のチェックボックスをチェックし、下の「Cancel checked orders」をクリック。

## 6 キャンセル -Cancel-



キャンセルの内容を確認してくるので、確認後にログイン時のパスワードを入れて「Cancel these orders」をクリック。注文に戻す場合は「No, do not cancel」を。

## 「明日、半値になっても後悔しない銘柄を」

口座は開設した。情報収集も少しずつ始めた。しかし、やはり不安だ...。そんな初心者のための「基本」を、ニューヨーク在住の投資コンサルタント荒井拓也氏に取材した。

初心者が米国株を売買するときの、基本的な心構えは何でしょうか。

**荒井:** 日本株とはかなり様相が違う米国株の「クセ」を知っておくべきでしょう。第一に四半期ごとに決算発表があり、その数字次第で株価が大きく動くことが多いということ。米国にはストップ安、ストップ高というものはありませんから、決算発表を受けて1日で株価が倍もしくは半分になってしまうことも日常茶飯事です。

第二は、日本では主流のチャート分析があまり役に立たないということ。会社の運命そのものとも言える株価の行方が、紙の上に書かれたチャートで判断が付きはすもないですから、考えてみればこれは当たり前の話です。そのうえ特に米国企業の場合、株主に対して社内情報を公開することを旨としていますから、毎日のようにニュースが出てきます。それを1つ1つ、アナリストなどが分析して買い推奨、売り推奨をして、それでまた株価が動きます。アナリストは決してチャート分析などしていません。したがって日本株をやるのと同じ感覚でチャート分析を主にして米国株式投資を行



「BenkeiUSA」  
荒井氏が主催するウェブサイト  
<http://www.BenkeiUSA.com/>

うと、とんでもない大怪我をすることになりますので、注意が必要です。

株の売買をインターネットで行うときの注意点は?

**荒井:** オンライントレーディングにおける最大のリスクは、何らかの理由によりオーダーが入られない事態が発生することでしょう。考えられる理由としては

回線が繋がらない

証券会社のサーバーのダウン

あなたのコンピューター自体の故障

などがあるでしょう。実際どれもよくあることで、特に は市場が荒れたときによく起きます。ダウンまでしなくとも非常にスピードが遅くなることが多いです。これらの状況になった場合、売りたいくても売れない、買いたい株を買い逃すなどということが起きて、悔しい思いをすることになります。本格的に始めるなら予防策として

ISP回線は2本用意しておく

証券口座は最低2つ保有する

PCも2台用意する

などの工夫が必要でしょう。また最後の手段として、電話をかけてオーダーを入れることも考えられますが、すべての証券が電話でのオーダーを受け入れるわけではないので事前に調べておく必要があります。

銘柄選択基準の基本は?

**荒井:** これはいろいろあります。それを全部論じるには1冊の本を用意しなければなりません。しかし、あえて1つだけ挙げるとするならば、あいまいな言い方ですが「あなたが買ったその株が明日半値になったとしても後悔することのない会社の株を買うべきである」だと思います。

### 荒井拓也

Takuya Arai



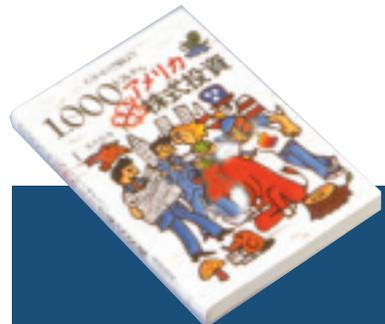
米国株式を中心としたニュースレター「BenkeiUSA」を発行するBenkeiUSA.com社長。著書に『インターネットで始めよう! 1000ドルから本気でやるアメリカ株式投資』がある。ニューヨーク在住。  
<http://www.BenkeiUSA.com/>

長期的な会社の運命と株価は一致します。しかし、短期的には株価というものは、全体的なムードとか金利状況などに影響されて大きく上下するものです。で、下がった局面でも自信を持ってさらにその株を買い増しできるか否かが、銘柄選定の最重要点だと思います。逆に言うと、そこまで自信がないのであればその株は買わないほうがよいでしょう。

投資の初心者が気をつけるべき事項は?

**荒井:** まず目的をはっきりさせることです。資産形成のためなのか、小遣い稼ぎなのか、儲けたいのか、損してもよいからスリルを味わいたいのか。それぞれ目的によって投資手法が違ってきます。多くの人が株式投資で失敗します。その原因の大半は目的がはっきりしていないからだと思います。一度「なぜ、株式投資、特に米国株式投資を始めるのか」についてゆっくりと冷静に考えてみることをお奨めいたします。それさえはっきりすれば「投資の道具」はあなたの目の前にありますから、あとは「Just do it」、やるだけです。

(メールインタビューによる)



『インターネットで始めよう! 1000ドルから本気でやるアメリカ株式投資』  
著者: 荒井拓也  
発行: NTT出版  
価格: 本体1900円+税  
ISBN: 4-87188-566-6



## リスク分散とは「何を信じるか」

米国株のオンライントレーディングは、スピーディーで便利という意味で今の時代には合っているのでしょう。ただ、私は長期投資におけるリスク分散という視点から、多額の資金を運用するのでない限り、個別株投資はファンドよりもリスクが高いと考えています。3ページ前でもふれられていますが、ウォーレン・バフェット氏の方針とは「株を買うのではなく、会社の持ち主になる」というものです。毎日のように売買を繰り返して利ざやを稼ぐデイ・トレーディングは、言うならば結婚を前提にしたマヅメなおつきあいではなく、今日はこのコ、明日はあのコと渡り歩くようなものです（笑）。

株にはいろいろな業種がありますから、業績のパターンも多様です。ガスや電気のような公共性の高い業種は需要が比較的安定していますし、良い時期とそうでもない時期が循

環的に現れる業種もあります。その多様なパターンに分散して投資しようとする、億単位のオカネが必要になってしまうのです。

また、ある産業が発展することでツブれてしまう業種だってあるわけです。百年前に自動車が出てきたときは、故障はするしバンクはするしで、馬車のほうがずっと実用でした。その時代の一般的な投資家なら、自動車会社よりも馬車の会社に投資するでしょう。逆に、今のインターネット関連株は、これからはインターネットの時代だと信じている人が投機的に買っているから高値なんです。利益が少なくてもPER\*が異常に高くても気にならないわけです。

そもそも、リスクというのは確率の問題ですから「得や損をする可能性」とも言えます。しかし、そのリスクをどう分散するのかは、最終的には「その人が何を信じるか」にかかっ



リチャード・マイケル・ナッシュ  
国際資産運用コンサルタント。著書『日本人のための  
オフショア金融センターの知識』（ダイヤモンド社）  
も好評。

ているんです。

\*PER (Price Earning Ratio) : 株価と利益を比較したときの倍率。4月7日現在、eBAYは7437倍、AOLは758倍という高さである。業種によって目安値は異なる。ちなみに、コカコーラは42、フォードモータースは12。quote.yahoo.comの「Detailed」で見られる。

## マネー入門者のためのキーワード解説

### S & P 500

米国スタンダード・アンド・プアーズ社が発表している時価総額をベースにした加重平均による株価指数の1つ。「S & P 500」は採用銘柄が約90業種にまたがり、これらでニューヨーク市場の約80%を占める。そのため、マーケット全体の動きをみる指標として活用されている。

この500種の総合指数のほかにも、S & Pの株価指数には工業株400種、公共株40種、金融株40種、運輸株20種の各指数がある。

### 店頭市場

証券取引所には上場されていないが、一般投資家に公開されている企業の株式を相対で売買する市場。証券会社の店頭でコンピュータシステムを利用して売買する。この店頭株市場に株式を公開するには定められた基準を満たす必要がある。

資本市場からの有利な資金調達や相統対

策を狙って、店頭株市場での株式公開を目指す中堅・ベンチャー企業も多い。

### 国債

歳入の不足を補うために、政府が発行する債券。経常的経費を賄う赤字国債、投資的経費に充てる建設国債、国債の償還のために発行される借換国債などがあり、用途により呼び方が異なる。

### ブラックマンデー

1987年10月19日の月曜日、ニューヨーク株式市場の株価が大暴落し、それを受けて日本をはじめ世界の主要な市場を大混乱に陥れた。ニューヨークダウは508ドル(23%)、東京の日経平均も3836円48銭(14.9%)と記録的な下げとなった。これは1929年10月27日の木曜日に端を発する大恐慌にも匹敵するということで「暗黒の月曜日」(ブラックマンデー)と名付けられた。

### SEC (米国証券取引委員会)

投資家保護と公正な証券取引の維持のための連邦政府機関で、1934年に証券取引法に基づいて設立された。上院の合意のうえで大統領より任命される5人の委員の下に、約2000人の職員を抱えている。

## 次回予告

### インターネットで調べる 米国ファンドの実力

ファンド(投資信託)という用語をよく聞くようになった。米国株が活況である要因の1つが、個人の年金資金がファンド経由で市場に流入しているからだとも言われる。では、米国籍「ファンド」とはどんなものなのだろう。それは日本の小額投資家にも恩恵をもたらすのか? 日本からも購入できるのか? インターネットで迫る、金融ビッグバンの主力商品の実力。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)